

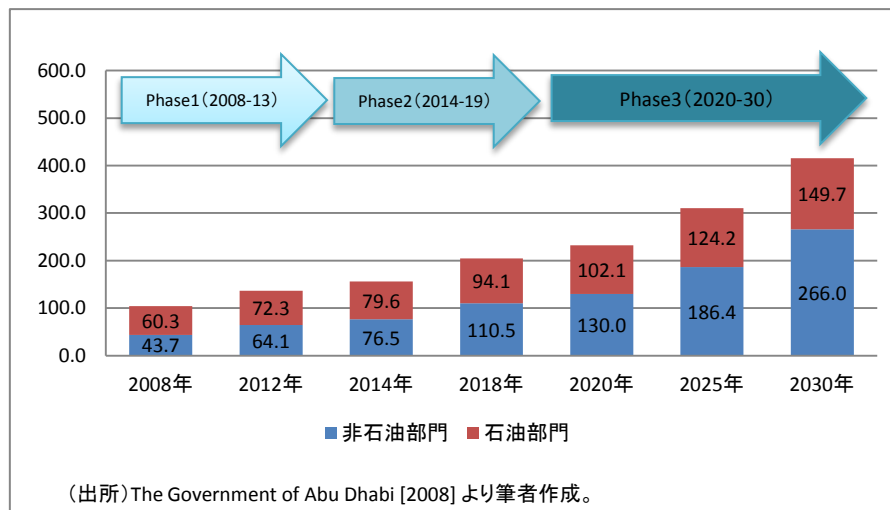
## アブダビ金融部門における「経済ビジョン 2030」の進展状況

The progress of "Abu Dhabi Economic Vision 2030" in the financial sector

### 「アブダビ経済ビジョン 2030」

近年のアブダビ首長国の経済開発を語る上で、「アブダビ経済ビジョン 2030 (Abu Dhabi Economic Vision 2030)」の進展状況が中心的なテーマとなっている<sup>1</sup>。2008年11月に発表された本計画の目標は、第1に経済多角化による原油輸出に依存しない経済成長を実現することと、第2に2030年時点のアブダビのGDPを4,000億ドル超まで拡大することである(図1)。この目標を達成するために以下の12部門を重点産業として設定してきた；①エネルギー(石油・天然ガス)、②石油化学、③金属、④航空・宇宙・防衛、⑤製薬・バイオテクノロジー・ライフサイエンス、⑥観光、⑦ヘルスケア・サービス、⑧運輸・貿易・物流、⑨教育、⑩メディア、⑪金融、⑫通信、である。本年2013年はビジョンの第1フェーズの最終年にあたり、上記の重点分野に属する関係機関と民間組織は第1フェーズで定めた短期目標達成のために邁進している現状にある。

図1 アブダビの実質GDP目標(2005年基準、単位:10億米ドル)



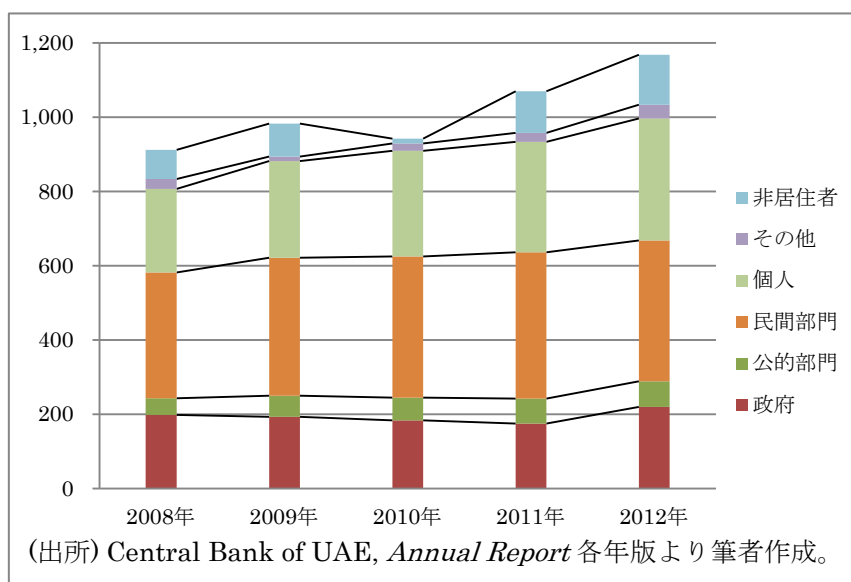
### アブダビ金融部門の課題

同計画の重点分野の一つの金融部門については、具体的に3つの課題が掲げられている。第1に、貯蓄と預金の拡大である。UAE全体の預金額の推移を図2で示した。アブダビ単独での

<sup>1</sup> たとえば「11th GCC Banking Conference」(2013年11月4-5日、於アブダビ)や「The 8th Annual Abu Dhabi Conference 2013」(2013年12月9-10日、於アブダビ)などの会議でも議論のベースになっている。

預金額の時系列データを入手できなかったが、アブダビ銀行の総資産は UAE の銀行資産全体の 57%を占めていた (2005 年) [The Government of Abu Dhabi, 2008]。また、*Bankscope* データベースによる筆者の推計では、2012 年末のアブダビ銀行の総資産額は 2,436 億米ドル、ドバイ銀行は 1,694 億米ドルであった。UAE 全体の預金額は 2008 年から 2012 年にかけて 28% 増加している。同期間の UAE 銀行の総資産額が 23.7% 増加していることと比較すれば、相対的に預金額は増進していると言える。非居住者による預金は 70.3%、公的部門は 54.5%、個人は 45.7% 増加しており、これらの部門が UAE の預金増加の推進要素となってきた。現在、UAE 中央銀行は、さらなる預金増進のために、銀行支店網の拡大による国民資産の取り込みを図っている。同時に、預金者に対する金融教育と預金者保護 (低所得者向け) を推進し、預金者の育成にも力を入れている。

図 2 UAE の預金構成の推移 (10 億ディルハム)



第 2 の課題として、経済部門と開発プロジェクトへの資金仲介の育成が挙げられてきた。本計画に複数含まれる大型インフラ建設プロジェクトを遂行するために、金融機関 (主に商業銀行) による資金仲介機能が重要な役割を果たすことを期待されてきた [The Government of Abu Dhabi, 2008]。UAE の銀行市場において大きな市場シェアを有するアブダビ基盤の銀行は、近年、堅調に資産規模を拡大させてきた。

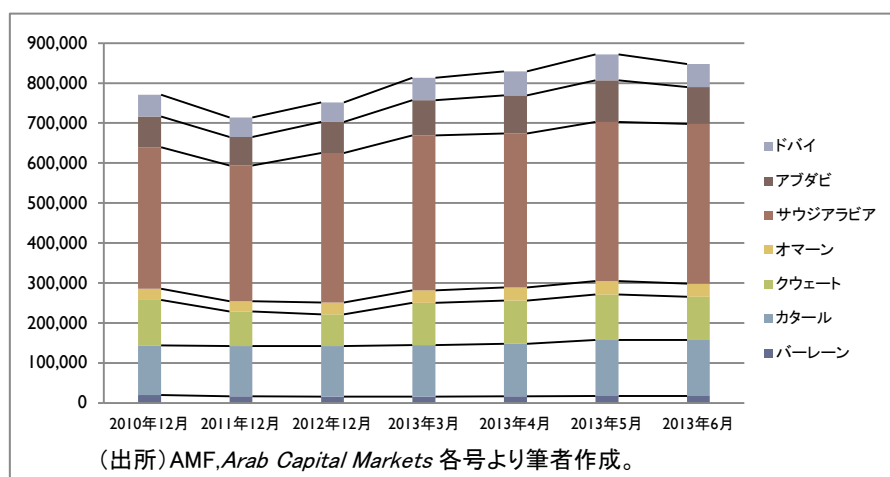
UAE 銀行の第 2 位の資産規模を誇るアブダビ国営銀行 (NBAD) は 2006 - 12 年に約 200%、アブダビ商業銀行 (ADCB) は約 125%、第一湾岸銀行 (FGB) は約 270% の総資産の成長をしており、これらの銀行の資産成長率は、他の首長国基盤の銀行の成長率と比較しても高い。資産規模としては中規模であるがイスラーム銀行であるアブダビ・イスラーム銀行 (ADIB) も同期間に 140% 近い成長率を記録しており、一般的な商業銀行とイスラーム銀行と業態を問わずアブダビ基盤の銀行部門は順調な成長を示している。これらのアブダビ基盤の銀行の収益率については、2006-12 年の ROA (純収益/総資産額) をみると、NBAD が平均 1.7%、ADCB

が 1.23%、FGB が 2.66%、ADIB が 1.35%であり、他の首長国基盤の銀行や中小規模銀行と比較しても高い [齋藤, 2013]。

しかし、だからといってアブダビ基盤の銀行を取り巻く経営環境が楽観的とは言い難い。2008 年以降、銀行貸出は政府向けと個人向けを除き低下傾向にある。また、同期間の収益率 (ROA) も低下傾向にありアブダビ基盤の銀行の収益機会が減少している。本計画でも指摘されたさらなる銀行間の統合・合併が必要であると考えられる。

アブダビ金融部門にとって第 3 の課題は、金融市場の育成である。アブダビ証券取引所の時価総額は、2013 年 6 月時点で 920 億米ドルに上る (図 3)。湾岸諸国株式市場全体の時価総額の成長率は 10%の増加 (2010 年 12 月-2013 年 6 月) であるのに対し、アブダビ証券取引所は 19.4%の増加を示しており成長著しい。しかし、2013 年 6 月時点のアブダビ証券取引所の時価総額は湾岸諸国全体の 10.9%を占めるに過ぎず、サウジアラビア・クウェート・カタールと比べても小さい。

図 3 湾岸諸国株式市場の市場価値 (名目値、100 万米ドル)



一般的に、GCC の株式市場は外部および内部のショックに対し変動しやすく不安定である。GCC の株式市場の株価は、域内の株価変動の影響を受けやすい [Hammoudeh, et al, 2008; Sedik and Williams, 2011]。また、米国市場や原油価格の変化の影響に敏感であるとも指摘されている [Moosa, 2010; Omran, 2008]。アブダビの株式市場が同首長国の経済開発のための安定的な資金調達先となるためには、これらの周辺諸国のショックあるいは外生的ショックを柔軟に吸収できるよう、投資家の増加と投資資金の拡大を図ることが必要である。

《参考文献》

齋藤純[2013]「最近のアブダビの金融情勢」  
(ドバイ商工会議所主催アブダビセミナー  
報告、2013年12月18日、於ドバイ)。

Hammoudeh, S. M., Y. Yuan, and M. McAleer [2008] "Shock and Volatility Spillovers among Equity Sectors of the Gulf Arab Stock Markets"

Moosa, I. [2010] "Stock market contagion in the early stages of the global financial crisis -- the experience of the GCC countries," *International Journal of Banking and Finance*, Volume 7, Issue 1, 3-31-2010.

Omran, M [2008] "Myth vs. Reality – Stock Price Bubbles in the UAE," in Mansur, A. and F. Delgado eds., *Stock Market Developments in the Countries of the Gulf Cooperation Council*, Palgrave Macmillan.

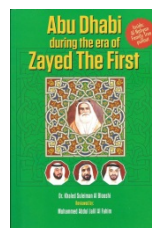
Sedik, T. S., and O. H. Williams [2011] "Global and Regional Spillovers to GCC Equity Markets," IMF Working Paper, No. 11/138.

The Government of Abu Dhabi [2008] "The Abu Dhabi Economic Vision"

(齋藤 純)

Column

## 資料紹介



**Khalid Suleiman Al Blooshi**[2013] *Abu Dhabi during the era of Zayed The First, Makarem.*

タイトルの“Zayed The First”とはアブダビのザイド・ビン・ハリーフア首長(在位 1855-1909)のことであり、現アラブ首長国連邦大統領兼アブダビ首長ハリーフア・ビン・ザイドの曾祖父に当たる。アブダビ首長国と首長家ナヒヤーン家の基礎を築いた英主である。

本書はザイド・ビン・ハリーフア首長の時代のアブダビの成り立ちについて、豊富な資料と共にまとめた概説書である。本書の構成は、バニ・ヤス族の登場とアブダビ首長国の勃興(第1章)、「休戦海岸諸国(Trucial States)」との関係(第2章)、カタール、バハレーンとの関係(第3章)、英国政府との関係(第4章)、ザイド首長期のアブダビ(第5章)となっている。

第5章では、当時、インド系の商人や金融業者がアブダビ島近海で真珠採取を行っていた業者(石油発見以前のアブダビの主要産業は真珠関連産業であった)を資金面でサポートしていたことが指摘されている。真珠採取業者は舟を出すための費用と出漁期に残された家族の生活費を捻出する必要があり、インド系商人・金融業者がそのための資金仲介をしていた。しかし、真珠採取業者の収益の分け前に対して債務の返済額が高かったため多くの業者は債務返済に苦勞していたという。

膨大な石油収入を財政基盤とし数々の大型開発プロジェクトを立ち上げ、高層ビルの立ち並ぶ現代のアブダビとは隔世の感があるが、ここまでアブダビを成長させてきた先人達の辛苦に想いをよせるための良書である。

(齋藤)